
序章



招聘事業研修生の助け合う様子（視覚研修生が肢体研修生の車いすを押している）。
（写真提供：財団法人日本障害者リハビリテーション協会）

人間の安全保障

木村秀雄

1. 国連開発計画・人間開発報告書

「人間の安全保障」は、Human Securityを翻訳したものである。現在に至るまで「人間の安全保障」の決定的定義は現れておらず、むしろ、すべての人に共通した定義がないことが、「人間の安全保障」の特徴といっても言いほどである。ただ、この概念が国連を中心に提唱されてきたことは間違いない。「人間の安全保障」に関連した国連の動きを中心に、概念の成立と展開をまず追ってみよう。

Human Securityという語が初めて使われたのは、UNDP（国連開発計画）のHuman Development Report（『人間開発報告書』）1994年版であることは、定説となっている¹。そしてまた、この概念が使われるようになった背景には、1992年6月にブラジルのリオ・デ・ジャネイロで「環境と開発に関する国連会議（国連環境開発会議）」通称「地球サミット」が開催され、そこで開発や環境問題について新たな方向が示された事実がある²。

さらに注目すべきは、環境や開発に関して、現地で生活している人々にかかわる社会的問題を無視してはならないことや、政策の決定や実施から疎外されてきた女性や先住民といった社会的弱者の主張を認める、という合意がなされたことである。世界各地の先住民たちが集まり、連帯を確かめ、カリオカ村宣言を採択したことも大きな出来事であったし、NGOの役割が認知されたことも、これまでの国家中心の開発行政に新たな方向性を示すものとして注目されたのである。

「人間の安全保障」の概念は、この地球サミットで顕在化した流れに乗ったものである。「人間開発報告書」1994年版において示された「人間の安全保障」とは次のようにまとめられる³。「人間の安全保障」は、領土の偏重の安全保障よりも人間

¹ 庭田(2005), p.97、勝俣(2001), p.8

² この会議では、開発や地球環境などに対するさまざまな議論が行われた結果、「環境と開発に関するリオ宣言」「アジェンダ21」「森林保全の原則声明」が採択され、「気候変動枠組み条約」「生物多様性条約」が調印された。ここでは、世界の目を環境問題に向けさせたこと、そして環境保全に対する先進工業国と開発途上国の考え方の共通点と相違点が確認されたことが大きい。

³ 勝俣(2001), pp.8-9

を重視し、また軍備による安全保障よりも「持続可能な人間開発」を重視する。そしてその概念の特徴として、①従来の南北関係を超越して提起される世界共通性、②国境でくい止めることのできない危険を生む相互依存性、③諸問題を生じる前に対処しておく早期予防、④人権を拡充し、保持していく人間中心性、が挙げられている。

そしてまた、「人間の安全保障」がカバーする領域としては、次の7つが挙げられている。①経済の安全保障、②食料の安全保障、③健康の安全保障、④環境の安全保障、⑤個人の安全保障、⑥地域社会の安全保障、⑦政治の安全保障。

しかし、この提言がそのまま国際的舞台や日本で受け入れられたわけではない。次のステップとして大きかったのが、「人間の安全保障委員会」の発足である。

2. 人間の安全保障委員会

上記のように、国連を中心として提起された「人間の安全保障」概念であるが、それが日本国内で広く知られるようになったのは、日本政府による資金拠出によって国連に「人間の安全保障基金」が創設され、またノーベル賞を受賞した経済学者アマルティア・センと、国連難民高等弁務官を務めた現JICA理事長の緒方貞子を共同議長とする、「人間の安全保障委員会」が設置されたことによる。

2003年に発表された発表された報告書の中で「人間の安全保障委員会」はその基本的な考え方を次のようにまとめている⁴。これが現在のところ用いられている「人間の安全保障」概念の大枠を示すものと考えられる。そのため、少し長いが引用しておく。

「国際社会は安全保障の新しい理論的枠組みを早急に必要としている。なぜなら、17世紀に国家の安全保障が提唱されて以来、安全保障をめぐる議論は現在までに大きな変容を遂げたからである。従来の考え方では、国民を守るための権限と手段は国家が独占し、秩序と平和は、国家権力と国家の安全保障を確保し拡大することによって維持できるとされてきた。しかし21世紀においては、安全保障が抱える課題も、安全を確保する側の事情もこれまでよりもはるかに複雑になっている。国家はいまでも人々に安全を提供する主要な立場にある。しかし今日、国家は往々にして

⁴ 人間の安全保障委員会(2003), pp.10-11

その責任を果たせないばかりか、自国民の安全を脅かす根源となっている場合さえある。だからこそ国家の安全から人々の安全、すなわち『人間の安全保障』に視点を移す必要がある。

『人間の安全保障』は、国家の安全保障の考え方を補い、人権の幅を広げるとともに人間開発を促進するものである。そして多様な脅威から個人や社会を守るだけでなく、人々が自らのために立ち上げられるよう、その能力を強化することをめざす。また、個人と国家、国家と国際社会を結びつけるための制度や政策を改善し、世界規模の連携を形づくろうとする、そうすることによって、安全保障や人権、開発などそれぞれの分野の中で、人間にとってより本質的な側面を結びつけていくことができる。

人間の安全保障委員会は『人間の安全保障』を『人間の生にとってかけがいのない中枢部分を守り、すべての人の自由と可能性を実現すること』と定義する。すなわち、『人間の安全保障』とは、人が生きていく上でなくてはならない基本的自由を擁護し、広汎かつ深刻な脅威や状況から人間を守ることである。また、『人間の安全保障』は、人間に本来備わっている強さと希望に拠って立ち、人々が生存・生活・尊厳を享受するために必要な基本的手段を手にすることができるよう、政治・社会・環境・経済・軍事・文化といった制度を一体としてつくりあげていくことも意味する。』

人間の安全保障委員会報告書は、これに続いて「人間の安全保障」が「国家の安全保障」を補完する4つの観点を挙げている⁵。

① 国家よりも個人や社会に焦点を当てていること [人間中心であること]

国家の安全保障では、好戦的あるいは敵対的な他国の存在が念頭にある。そして敵国から国境や制度、価値観、国民などを守るために強力な安全保障体制をつくり上げる。これに対して「人間の安全保障」は、外敵からの攻撃よりむしろ、多様な脅威から人々を保護することに焦点を当てる。

② 国家の安全に対する脅威とは必ずしも考えられてこなかった要因を、人々の安全への脅威に含めること [脅威]

⁵ 人間の安全保障委員会 (2003), pp.12-13

国家の安全保障の意味するところは、軍事力により軍事力から国境を守ることである。これに対し「人間の安全保障」は、環境汚染、国際テロ、大規模な人口の移動、HIVエイズをはじめとする感染症、長期にわたる抑圧や困窮までを視野に入れる。

③ 国家のみならず多様な担い手がかかわってくること [担い手]

国家のみが安全の担い手である時代は終わった。国際機関、地域機関、非政府機関（NGO）、市民社会など、「人間の安全保障」の実現にははるかに多くの人が役割を担う。HIVエイズとの闘い、地雷の禁止、人権擁護といった分野で、すでに多くの人々が活躍している。

④ その実現のためには、保護を越えて、人々が自らを守るための能力強化が必要であること [能力強化]

安全を確保することと人々や社会の能力を強化することは密接に結びついている。人間は危険な状況に置かれていても、たいていの場合自ら解決の糸口を見だし実際に問題を取り除いていくことができる。たとえば、紛争後の社会で多様な人々が再建のために力を合わせることは治安の維持につながる。

3. 「人間の安全保障」が語るもの

これまで紹介してきた「人間の安全保障」に関わる解説は、国連によるものであるだけに、「国家の安全保障」との対比のもとに語られている。そして、この概念の提唱に、冷戦の終結、地球規模の環境破壊、経済・社会のグローバル化が影響を及ぼしているのは明らかである。

冷戦の終結によって世界規模で平和が達成されるという楽観的な見通しは、すぐに裏切られてしまった。パレスチナ、旧ユーゴスラビア、アフガニスタン、イラクの問題は、世界規模でもまた地域規模でも、平和が容易には達成されず、かえって悪化することさえあることを表している。二酸化炭素の削減に関しても各国間でなかなか合意が形成されず、削減目標の達成も危ぶまれている。そして経済・社会のグローバル化もまたさまざまな問題を引き起こしているのである。

このような状況において人間ひとりひとりの安全を確保するために提案されたのが、「人間の安全保障」である。しかし、そしてその範囲は極めて広く、人間に関わるすべての分野を包括してしまうかの観を呈している。そのため、これをそのま

ま具体的なテーマに当てはめても、何か新しい結論が生まれるわけではない。しかし、これまで直接関連づけられていなかったテーマを繋ぎ、包括的に扱うという方針をこの概念は打ち出している。

地球規模の環境問題と個人の安全が無関係ではないこと、障害者問題と開発援助や紛争の問題も無関係でないこと、などなど、これまで一体として扱われて来なかった問題を同時に視野に入れることによって、新たな行動の可能性をさぐろうとするものであることが、『人間の安全保障』の際だった特徴である。例えば、『人間の安全保障委員会報告書』には、「人間の安全保障」が平和、安全保障と開発を結びつけるというコフィ・アナン事務総長の言葉を引用している⁶。

『人間の安全保障』には、暴力を伴う紛争が起きていないことだけではなく、はるかに幅広い意味がある。それには人権、良い統治、教育や保健医療へのアクセスのみならず、一人ひとりの人間が可能性を実現する機会と選択肢を手にすることも含まれている。そしてこの目標に向けて一步一步進んで行くことが、貧困を削減し、経済成長を達成し、紛争を予防することにもなる。欠乏からの自由、恐怖からの自由と、将来の世代が健全な自然環境を受け継ぐ自由、これらの基本的な要素が相互に関連しあい、人間の安全、ひいては国家の安全を構成するのである。』

そしてまた、「人間の安全保障」の特徴は、個人、特に社会から排除された弱者の能力強化を強調している。緒方貞子は、『人間の安全保障』の実現には、多くの局面で社会から排除された人々を取り込む必要がある。可能なかぎり多くの人々が、明日、来週、来年といった将来について十分な自信をもてるようにしなければならない。すなわち、人々を保護し、その能力を強化することは、人々が安全にかつ尊厳をもって暮らせる真の可能性を創造することでもある。」と述べている⁷。

そしてまた、「人間の安全保障」に担い手として国家以外にNGOや市民社会などを重視していることも重要である。これは、前述の地球サミットにおける議論の流れを引き継いでいる。社会的弱者の能力強化を図るためには、国家以外の様々なアクターが関与することが決定的に重要であり、同時にそれらのアクターの能力強化を計ることも不可欠なのである。さまざまなアクターの重層的連携があってはじめて

⁶ 人間の安全保障委員会 (2003), pp.11-12

⁷ 人間の安全保障委員会 (2003), p.29

て、「人間の安全保障」は意味を持つ。

それでは、包括的な概念としての「人間の安全保障」と、具体的な分析や行動をどのように繋いでいったらよいか、勝俣誠の言葉を引いて全体を締めくくろう⁸。

「私たちは、人間の安全保障概念をどう厳密に定義し、分析用具として使えるようにしたらいいか、まだどう既存の学説のなかに位置づけるかを周遊関心事とする作業ではなく、まさに市民団体の活動を通じて南の現場でぶつかっている人間の尊厳の剥奪ないし非人間的な状況をどう認定、理解し、どう対処すべきかを人間の安全保障問題として大まかにくくり、具体的事例をとおして分析し、考察すべきではないか。」

参考文献

勝俣誠、2001、「人間の安全保障と市民社会」グローバル化と南の地域」勝俣（編）、『グローバル化と人間の安全保障』行動する市民社会』、日本経済評論社、1~27頁。

庭田茂吉、2005、「ヒューマン・セキュリティ概念の再構成と現代社会」『同志社大学ヒューマン・セキュリティ研究センター年報』第2号、94~123頁。

人間の安全保障委員会（Commission on Human Security）、2003、
『安全保障の今日的課題～人間の安全保証委員会報告書』朝日新聞社
（Human Security Now: Protecting and Empowering People 2003）

⁸ 勝俣（2001），pp.9-10